

Jミルクが2022年1月28日に公表した「需給見通し(※2021年12月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

※バターの販売速報については動向に大きな変化がないため今月号より掲載とします。

◀需給は厳しい環境が続く～生産ピークに向けて需要拡大を～▶

・2月の需給実績について、生乳生産は都府県がやや伸び率は鈍化しているが北海道は引き続き堅調に推移し、全国では前年を上回っている。飲用需要は先月に引き続き前年並みに推移しており、差し引きの乳製品向けは前年を上回って推移、これに伴い脱パ等向けの生産量が増加したものの、推定回り数量が増加した結果、月末在庫量はJミルク予測よりもやや減少した。

・3月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比95.2%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):98.9%)については、3月の気温が例年よりも高い日が続いたことや統計が高めに出る傾向を踏まえても予測値前後で推移している可能性も十分考えられる。直近(4/4週)の牛乳類の家庭内消費については、全品目総じて前週を上回る推移となっており、ヨーグルト類についても前週を上回っている。気温の上昇が起因しているものと考えられるが、引き続き消費動向には注視が必要。

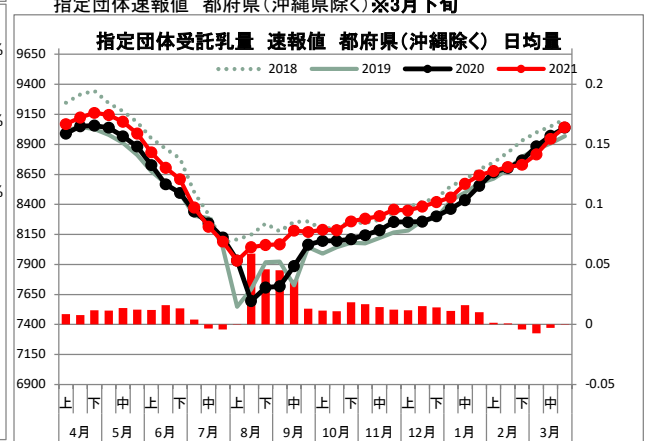
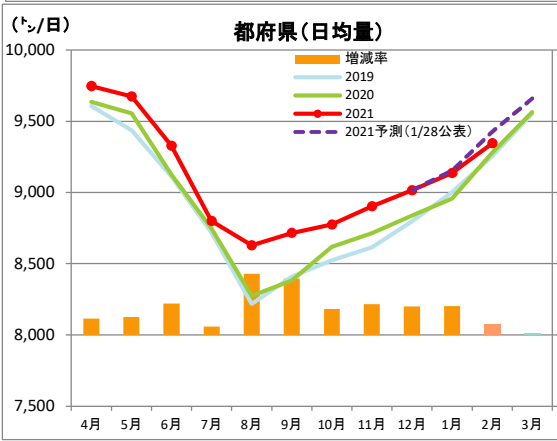
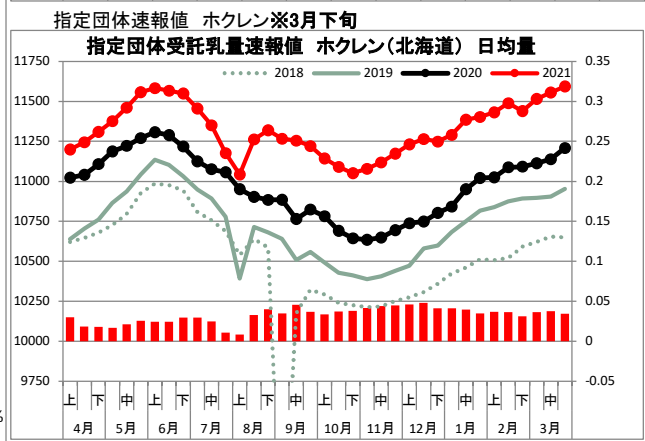
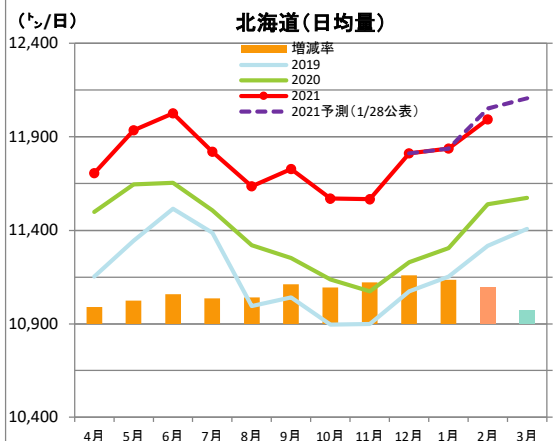
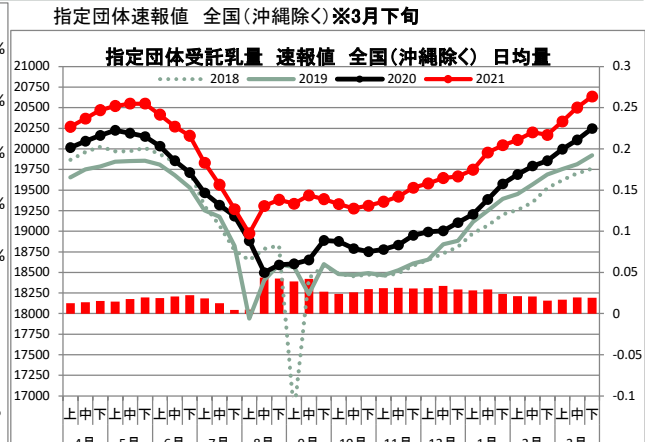
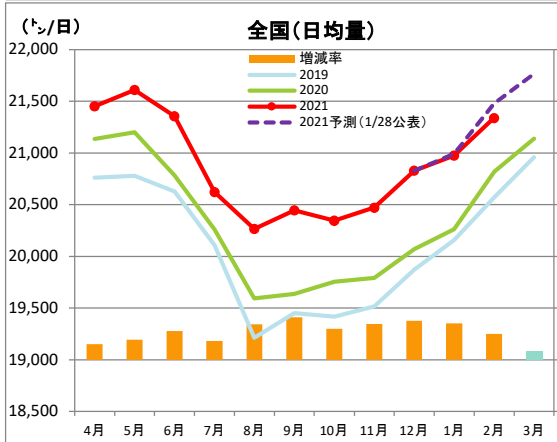
・まん延防止等重点措置は3月21日で解除され、月末からの連休を前に業務用需要を中心とした消費増加が期待される、一方で新型コロナの感染者数は高止まりを続けていることや、ウクライナ侵攻によるエネルギー資源高騰、世界的な経済回復による海運のひっ迫・高騰、進む円安等による食料品価格・物価上昇は今後も続く可能性がある。今後、連休も控え、生乳生産量のピークを迎える5月には厳しい需給環境となることが想定されていることから、まずは学乳が休止となる目先のGWを見据えて一層の需要拡大や生産抑制、乳製品工場における処理の最大化に取り組むことが重要となる。

【生乳生産量】増減率は、日均量で算出。

(1)2月の生乳生産量は、全国597千トン(前年同月比102.5%)、北海道336千トン(同103.9%)、都府県262千トン(同100.7%)。

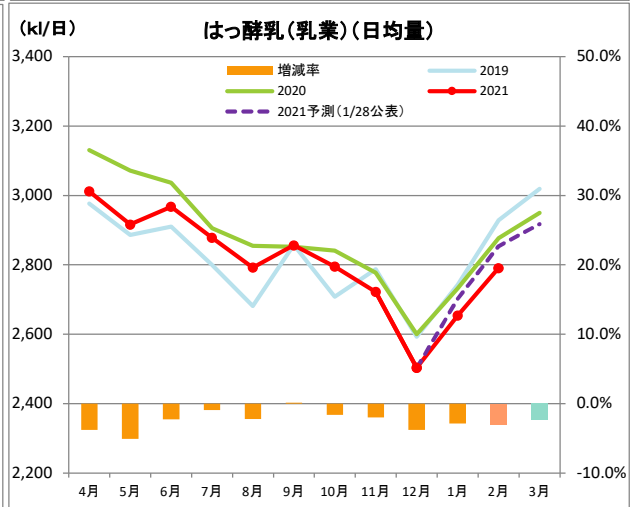
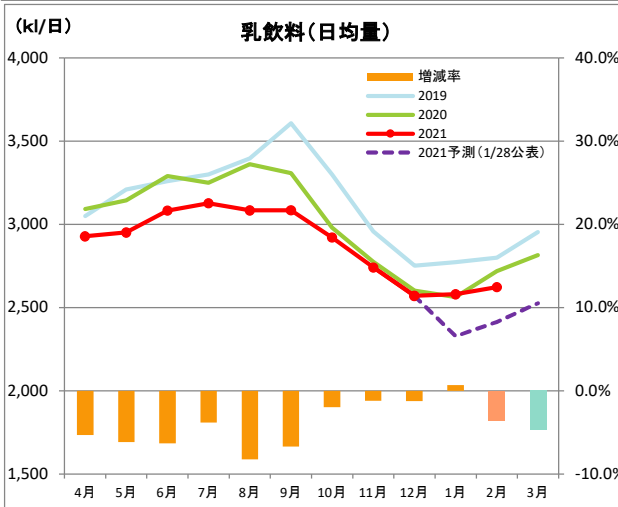
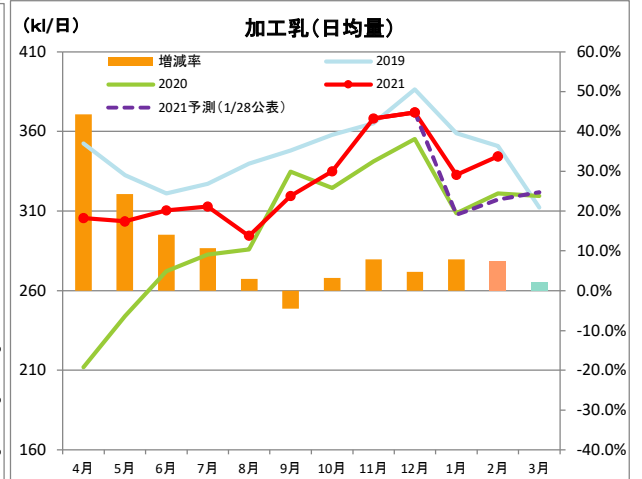
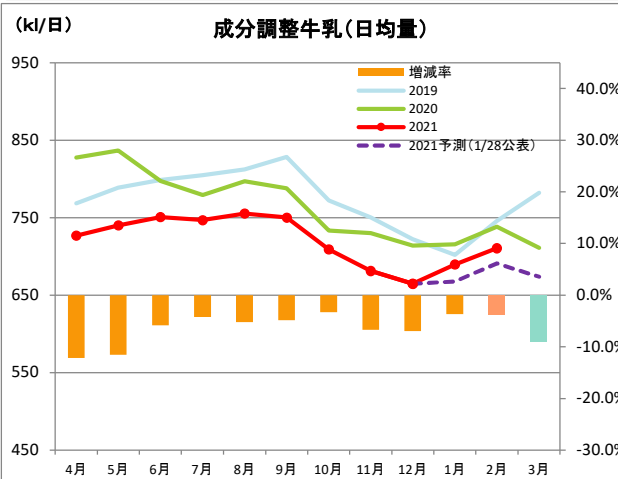
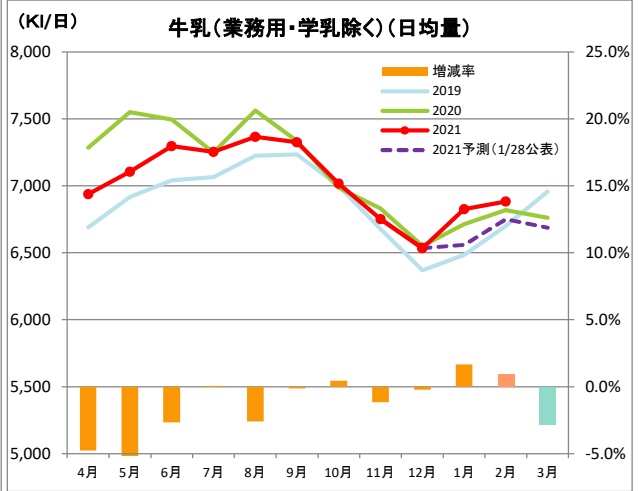
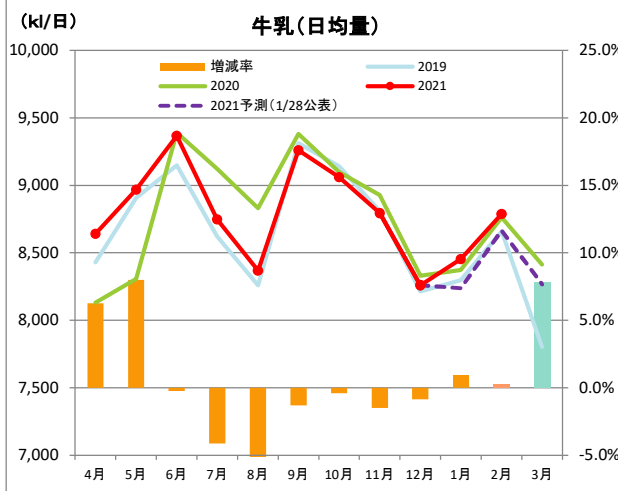
(2)Jミルク予測値(全国601千トン、北海道337千トン、都府県264千トン)との比較では、やや下振れとなっている。

(3)直近の指定団体速報値によると、2021年度の受託乳量実績は全国が同102.4%、北海道が同103.2%、都府県(沖縄除く)が同101.2%となった。また北海道の4月上旬の速報値は103.0%となっている。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1) 2月の牛乳等生産量は、牛乳246千kl(前年同月比100.3%)、成分調整牛乳20千kl(同96.2%)、加工乳10千kl(同107.3%)、乳飲料73千kl(同96.4%)となり、牛乳類合計では349千kl(同99.4%)となった。
- (2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.9%、「業務用」は同105.7%。
- (3) はっ酵乳(乳業)は78千kl(同97.0%)と前年を下回って推移している。
また、非乳業実績(1月)についても、同96.8%と前年を下回っている。

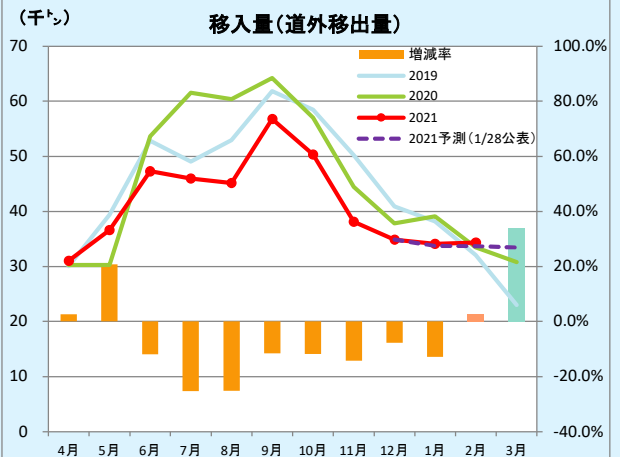
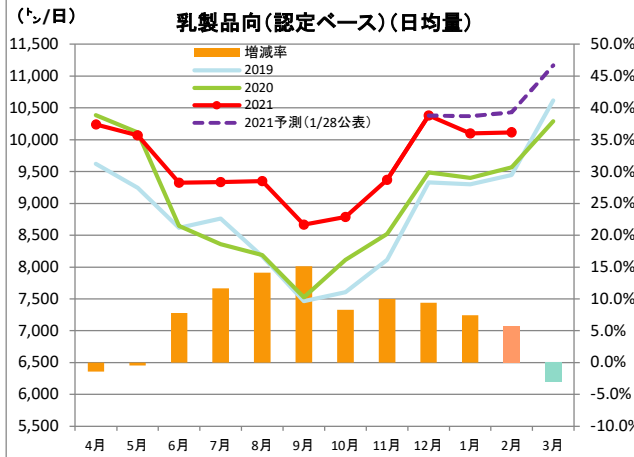
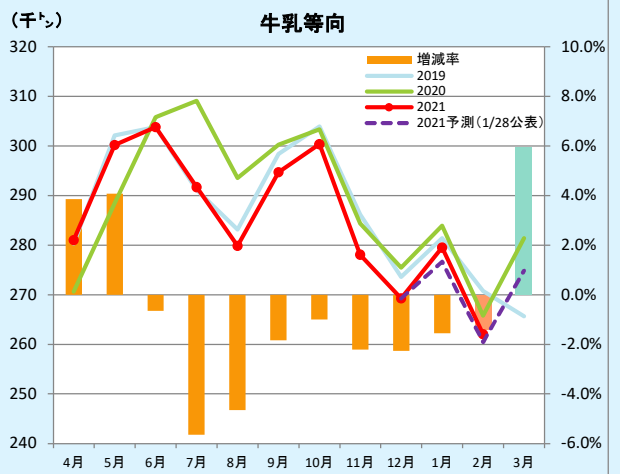
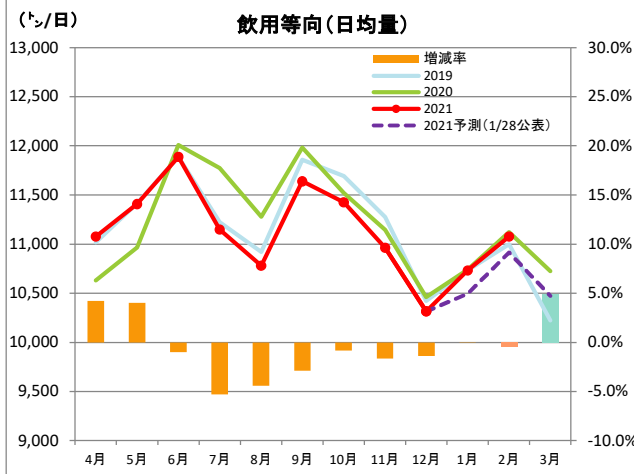
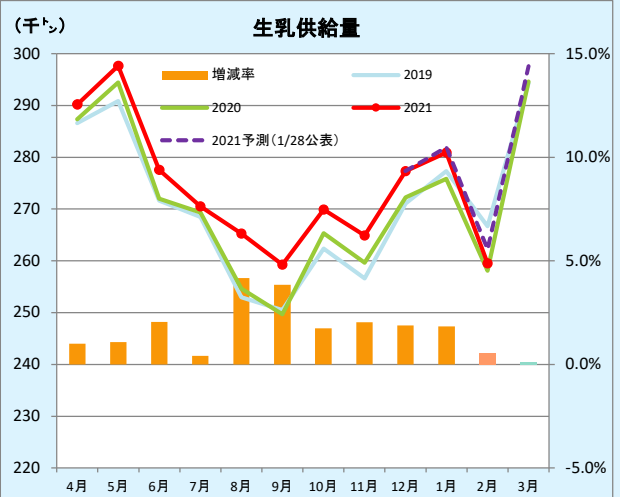
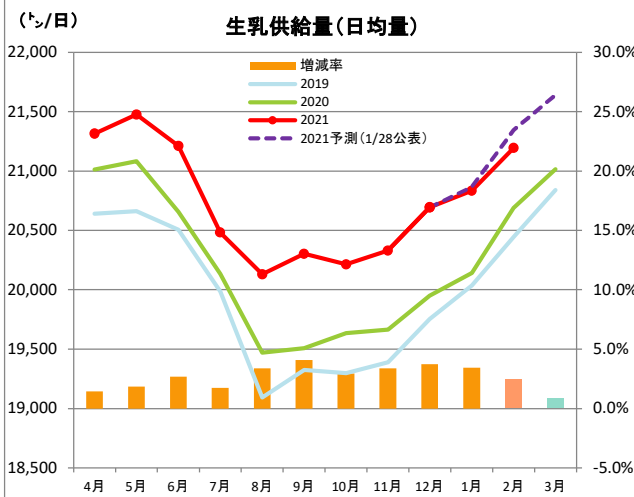


【用途別処理量】※増減率は、日均量で算出。

(1)2月の生乳供給量は593千 t （前年同月比102.4%）、飲用等向310千 t （同99.6%）、乳製品向（認定ベース）283千 t （同105.8%）。
 (2)予測値との比較では、生乳供給量（予測値：598千 t ）は下振れ、飲用等向（予測値：306千 t ）は上振れし、結果乳製品向（予測値：292千 t ）は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

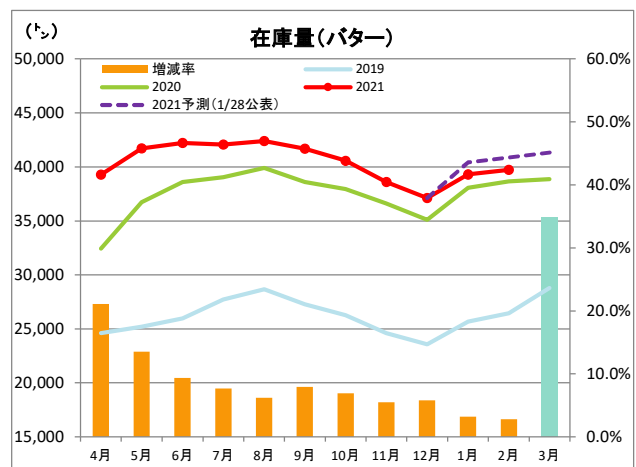
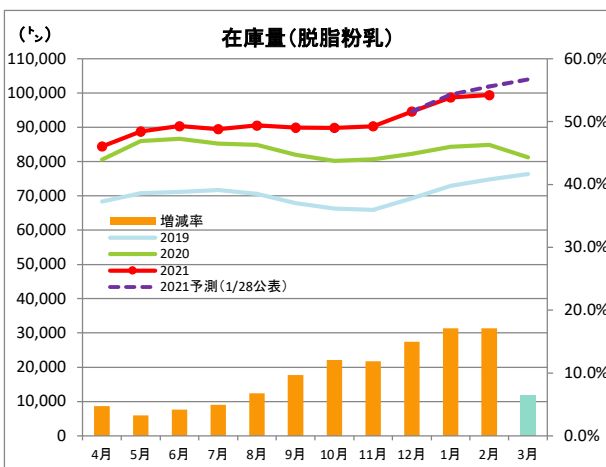
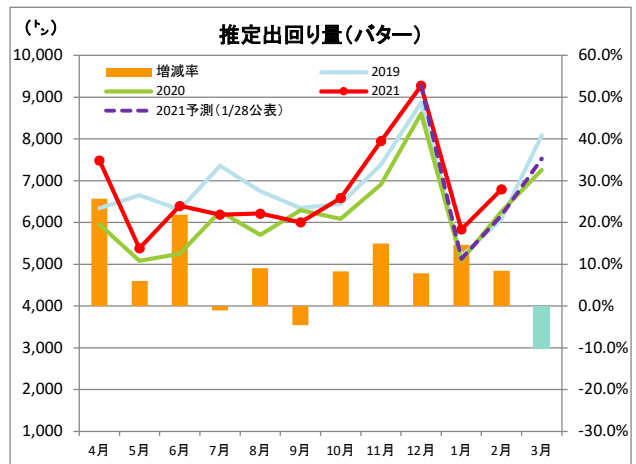
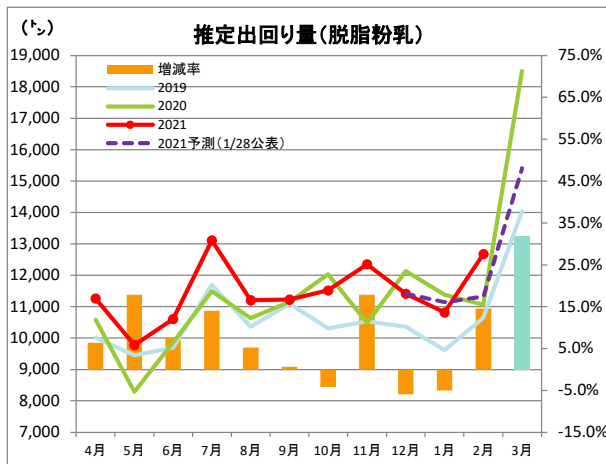
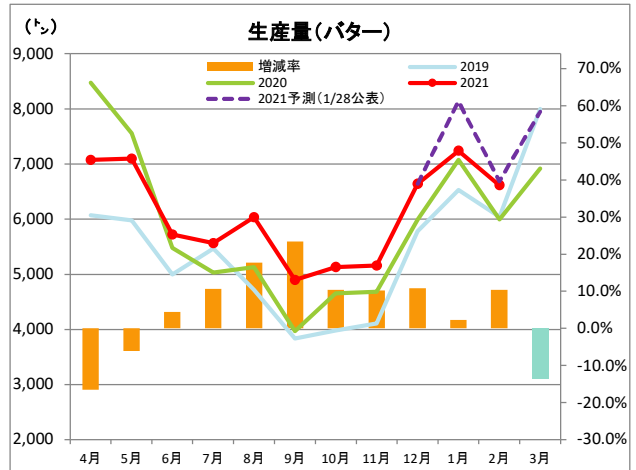
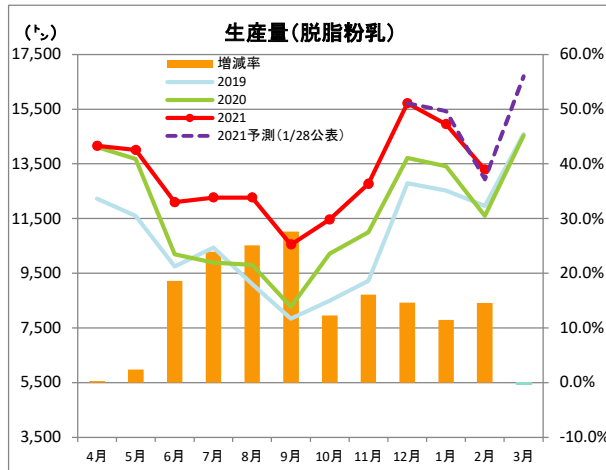
(1)2月は、生乳供給量260千 t （前年同月比100.6%）、牛乳等向262千 t （同98.6%）。
 (2)北海道からの移入量について、34.3千 t （同102.5%）と前年を9か月ぶりに上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量（予測値：262千 t ）は同程度、牛乳等向（予測値：260千 t ）は同程度、北海道からの移入量は（予測値：33.7千 t ）は微増となった。



【脱脂粉乳・バター需給】

(1) 脱脂粉乳は、2月の生産量は13.3千トン(前年同月比114.6%)、推定出回り量は12.7千トン(同114.6%)、その結果、在庫量は99.4千トン(同117.1%)。2月単月としては生産量が昨年より増加したが、推定出回り量も増加し、在庫は先月と同程度となった。
 なお、予測値との比較では在庫量(予測値:101.9千トン)はやや下振れしている。

(2) バターは、2月の生産量は6.6千トン(同110.4%)、推定出回り量は6.8千トン(同108.4%)、その結果、在庫量は39.7千トン(同102.8%)。
 予測値よりも推定出回り量が上振れしており、在庫量(予測値:40.9千トン)はやや下振れしている。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)3月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比95.4%、成分調整牛乳:同95.7%、加工乳:同98.3%、乳飲料:同93.3%。
牛乳類では同95.2%

【参考】2020年度比…牛乳:92.9%、成分調整牛乳:89.6%、加工乳:93.3%、乳飲料:84.7%(牛乳類トータル:91.4%)

・販売単価は、牛乳:189.5円、成分調整牛乳:173.6円、加工乳:190.4円、乳飲料:150.1円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(4/4週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.3%、成分調整牛乳:同98.1%、加工乳:同100.6%、乳飲料:同95.2%。
牛乳類トータルでは同97.1%

【参考】2020年度比…牛乳:90.8%、成分調整牛乳:85.8%、加工乳:91.6%、乳飲料:83.1%(牛乳類トータル:89.1%)

・販売単価は、牛乳:189.7円、成分調整牛乳:173.8円、加工乳:191.0円、乳飲料:150.0円。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

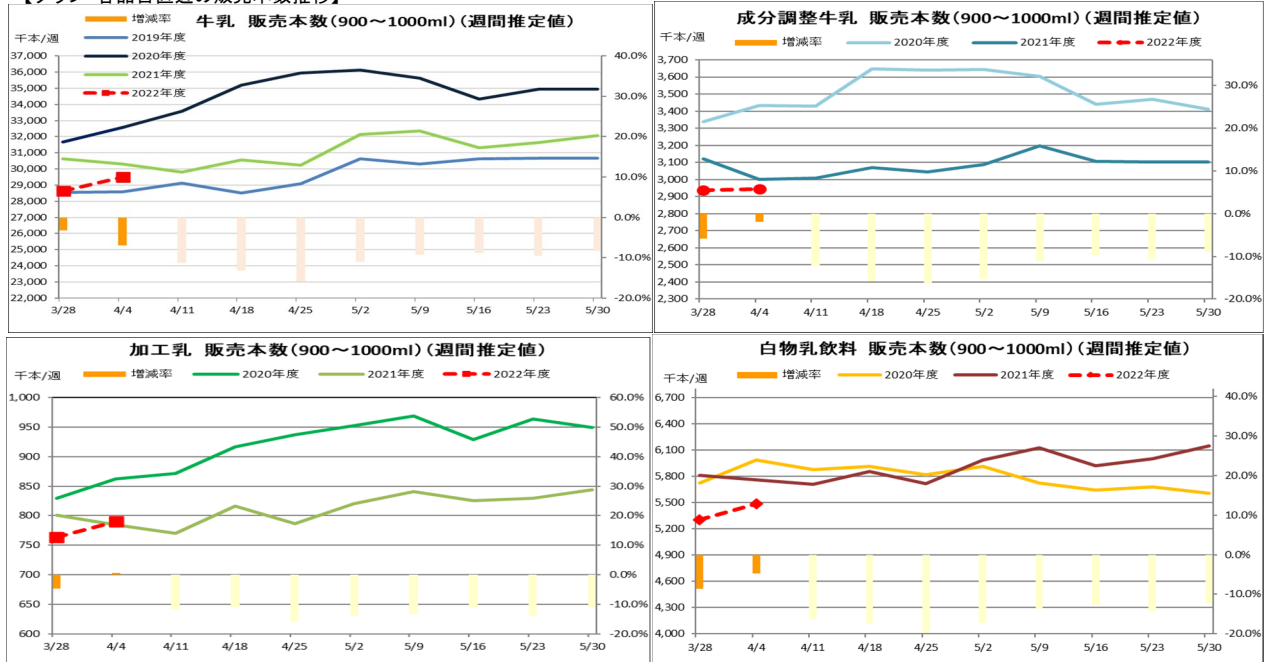
単位:千個、円

品目	区分	2021/11-	2021/12-	2022/1-	2022/2-	2022/3-
		販売個数	158,264	164,941	162,926	151,428
トータル	販売個数前年比	93.1	94.8	95.2	96.1	95.2
	販売単価	182.3	183.0	183.7	182.7	182.7
牛乳	販売個数	120,235	126,006	124,657	115,514	124,883
	販売個数前年比	93.8	95.7	96.1	97.1	95.4
成分調整牛乳	販売個数	11,987	12,509	12,237	11,599	12,596
	販売個数前年比	92.2	92.8	95.0	96.1	95.7
加工乳	販売個数	3,236	3,301	3,211	3,023	3,334
	販売個数前年比	99.0	100.1	98.0	99.3	99.3
乳飲料	販売個数	22,804	23,125	22,821	21,293	23,339
	販売個数前年比	89.2	90.6	90.4	90.6	93.3
	販売単価	149.9	150.9	150.5	150.3	150.1

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	2.14-	2.21-	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-
		販売個数	37,784	37,703	36,769	37,426	37,065	37,487	37,641
トータル	販売個数前年比	96.6	94.8	95.0	96.2	95.9	94.8	93.2	97.1
	販売単価	182.6	182.5	182.7	182.5	182.7	182.7	182.7	182.9
牛乳	販売個数	28,714	28,737	27,874	28,430	28,242	28,619	28,639	29,492
	販売個数前年比	97.2	95.6	95.3	96.3	96.5	94.8	93.5	97.3
成分調整牛乳	販売個数	2,970	2,896	2,865	2,857	2,821	2,837	2,938	2,945
	販売個数前年比	98.8	96.0	96.8	96.1	96.0	95.1	94.2	98.1
加工乳	販売個数	769	761	751	763	755	754	764	790
	販売個数前年比	101.5	98.3	99.6	100.8	100.1	96.8	95.3	100.6
乳飲料	販売個数	5,331	5,309	5,278	5,376	5,248	5,277	5,300	5,485
	販売個数前年比	91.7	89.8	92.3	95.3	92.5	94.2	91.3	95.2
	販売単価	149.6	150.1	150.0	150.1	150.3	150.2	150.2	150.0

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(4/4週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)一昨年比ではドリンクタイプは70%程度、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	2.14-	2.21-	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-
ドリンクタイプ	↓	↓	↔	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
大容量タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔

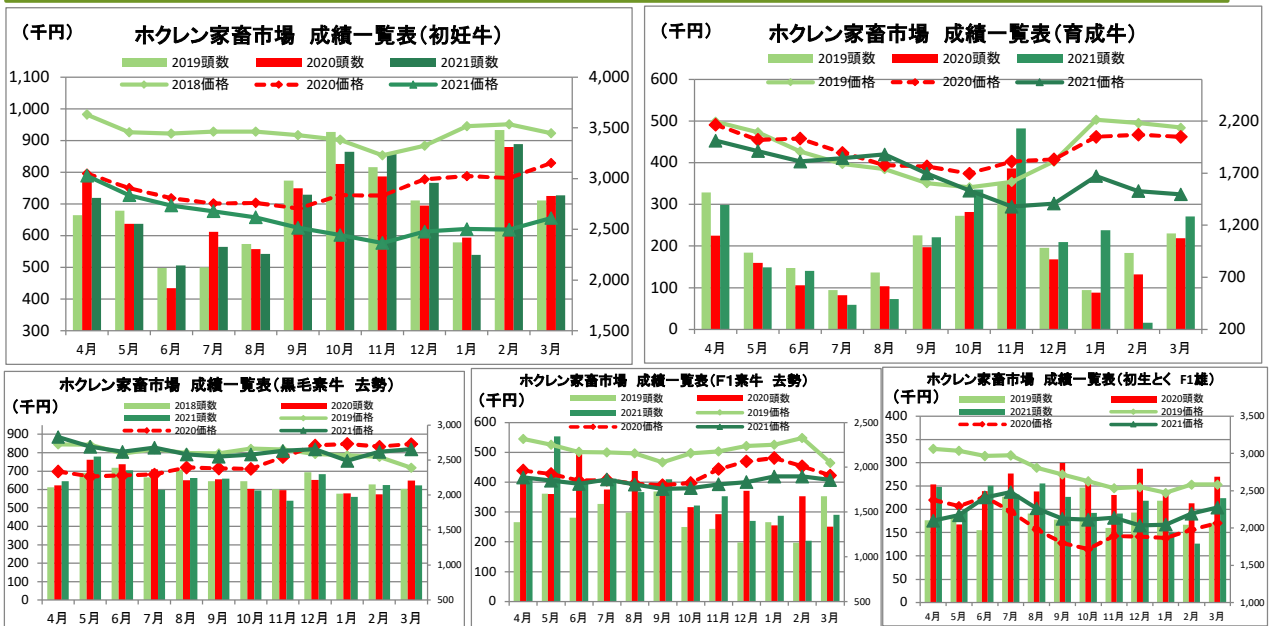
- ↓ : 前年比90%未満
- ↔ : 前年比90%以上100%未満
- ↔ : 前年比100%以上105%未満
- ↔ : 前年比105%以上110%未満
- ↔ : 前年比110%以上120%未満
- ↔ : 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)3月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は655千円(前年同期比79.0%)、育成牛価格は324千円(同70.1%)、和牛素牛(去勢)価格は820千円(同96.8%)、F1素牛(去勢)価格は407千円(同96.4%)、F1初生(雄)価格は204千円(同119.5%)。
 (2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同100.1%、育成牛:同119.5%、和牛素牛(去勢):同96.8%、F1素牛(去勢):同109.8%、F1初生(雄):同89.4%。

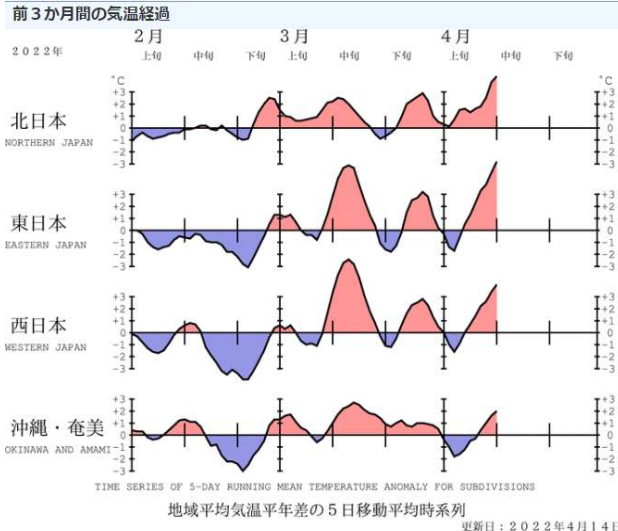
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



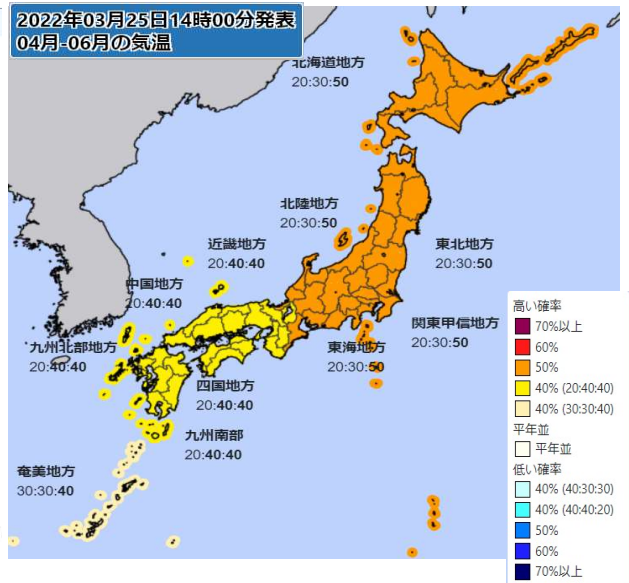
【気温の動向】

(1) 全国的に2月は平年よりも気温が低くなり、3月は平年よりも気温の高い日が多かった。
 (2) 4-6月の長期予報によると全国的に平年並み〜高くなる確率が高く、特に東日本は高くなる確率が50%以上となっている。
 ※出典: 気象庁

※参考資料

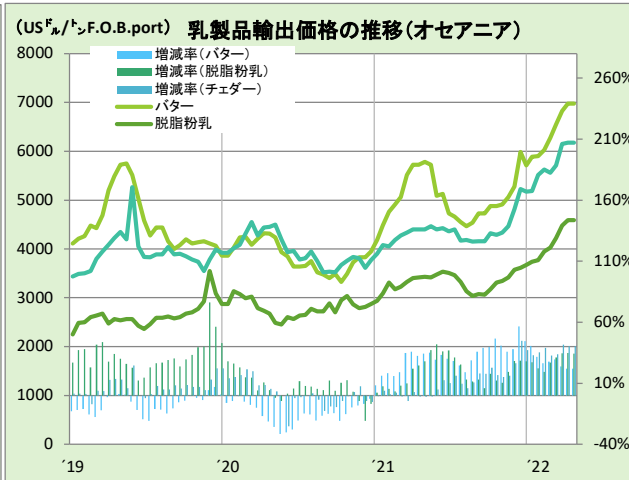
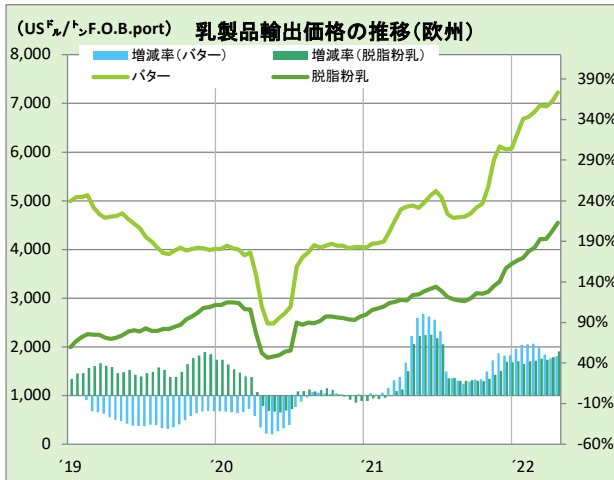


上図では、5日移動平均値（前後各2日を含む5日間の平均値）を平均期間の真ん中の日に表示しています。平年値は1991～2020年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。



【乳製品輸出価格の動向】

(1) 直近4月上旬の価格は欧州、オセアニアともに脱脂粉乳は4,500ドル/トン程度、バターは7,000ドル/トン程度まで上昇。オセアニアのチェダーチーズは6,000ドル/トンを超える水準となっている。



○Jミルク特設サイト「需給安定に向けてー2022春」

Jミルクでは、今春の生乳需給に関する情報をまとめた特設ページを開設。各団体や企業の取り組み内容や需給関連のQ&A、「給食のない日の牛乳」について学校関係者向けリーフレットなどの情報を提供しています。こうした情報も参照の上、需給安定へのご理解とご協力をお願いします。

<https://www.j-milk.jp/news/supplystable2022spring.html>